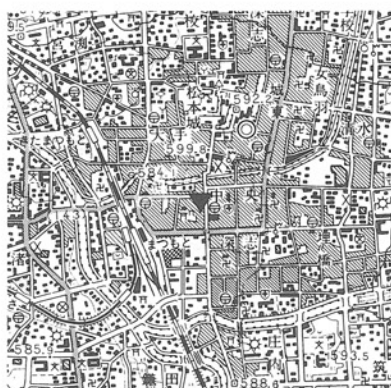


長野・松本城下町跡本町  
まつもとじょうかまち ほんまち

- 1 所在地 長野県松本中央二丁目
- 2 調査期間 第四次調査 一九九七年（平9）十一月～二月
- 3 発掘機関 松本市教育委員会
- 4 調査担当者 竹内靖長・今村 克・村田昇司
- 5 遺跡の種類 城下町跡
- 6 遺跡の年代 近世（一七世紀前半～一九世紀前半）
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（松 本）

本町は、松本城下町の中でも善光寺道（北国脇往還）沿いに配置された主要な町屋である親町三町（本町・中町・東町）の一つで、問屋や商家が軒を連ねて栄えた。松本城下を貫く善光寺道は城域の東部を南下し、東町を経て女鳥羽川を横切った後西折する。中町を通過して再び南に折れ、ここより以南が本町となる。こうした町屋の骨格形成は、『信府統記』の記述から小

笠原貞慶が松本城東側にあった市辻・泥町の町人地を女鳥羽川以南に移した一六世紀末のことと考えられている。

松本市街地の再開発事業に伴って実施された第四次調査地点では、一七世紀前半以降の生活面（整地層）四面が確認された。調査は主に一八世紀末から一九世紀前半の生活面（第一検出面）について実施し、建物一〇棟、水道遺構二条、土坑四一基、ピット二基、埋設桶五基、溝状遺構三条を検出した。とりわけ基礎構造の明瞭な建物、保存状況の良い水道施設、火災による被熱のためゴミ穴に一括投棄されたと考えられる上野砥沢産砥石の大量出土が注目される。

木簡は、水道施設の埋設桶の蓋に墨書のあるもの二点のほか、埋設桶から一点、木製遺物が多量に遺存していた土坑一五から四点、計七点出土した。水道施設は三基の埋設桶（溜桶）で結ばれた東西方向延長一五m近くにわたるもので、白色粘土で丁寧に密封した継ぎ手、棕櫚縄をパッキングに用いた二重の蓋構造を有する木樋で構成される。

8 木簡の釈文・内容

埋設桶一

(1) 「桶源

文政十

丁カ

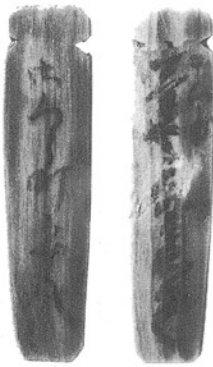
大□ 初夏



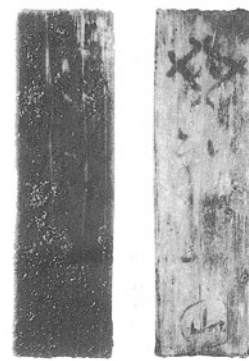
(2)



(1)



(4)



(3)



(7)



(6)



(5)

埋設桶二

(2) 「大□」

文化二<sub>乙</sub>丑<sub>二</sub>歲六月吉辰<sub>一</sub>

径585×厚30 061

埋設桶三

(3) 「(目印) □ ⊕」



187×52×7 011

土坑一五

(4) 「〈松本  
岩井や安平方へ」

「〈御くら 平八」

95×24×4 032

(5) 「□ ⊕」



248×61×11 011

(6) 「(目印) 上々□方銅拾貳貫

□月廿五日  
五大力菩薩

(138) × 37 × 8 019

(7) 「上□□」

・「伊勢榮三駄之」

208×40×7 011

(1)(2)は桶蓋の裏面に墨書されたもので、水道施設の新設あるいは改修に際しその日付を記したものであると思われる。文政一〇年は一八二七年、文化二年は一八〇五年である。(3)・(7)は荷札と考えられる。

(3)の目印は「◇」に「人」、(6)の目印は「□」に「一」。(6)の裏面の「五大力菩薩」は荷物の安全を祈願する呪句。

9 関係文献

松本市教育委員会『松本城下町跡本町第三・四次、伊勢町第一四一七次―平成九年度試掘調査報告書―』(松本市文化財調査報告一三二、一九九八年)

(竹原 学)